

町長コラム 第157号

美里町の新型コロナウイルス感染者が増えています。令和2年中は9人、令和3年中は63人、令和4年に入り4月19日現在で475人となっており、1月以降、月を追うごとに増えています。

感染者の判明月別に見ると、1月は27人、2月は158人、3月は189人、4月は19日現在で101人となっています。

また、4月に判明した年齢別の内訳を見ると、40歳代までの若年者が特に増えています。(右表参照)

4月1日～19日の間に判明した新規感染者数

年代	4月判明の新規感染者数
10歳未満	12人
10代	9人
20代	14人
30代	13人
40代	18人
50代	10人
60代	11人
70代	10人
80代	4人
90代以上	0人
合計	101人

一方、4月18日現在のワクチン接種率状況は、12歳以上の2回目接種率が85.0%、3回目接種率が53.9%です。これを年齢別にすると、65歳以上では、2回目が91.6%、3回目が84.9%なのに対し、64歳以下では、2回目接種の終了者が81.2%、3回目になると

町の感染動向とワクチン接種率

36.2%まで低下しています。

さらに、5歳ごとの2回目接種者を見ると、25歳～29歳が61.2%と最も低く、15歳～19歳は82.5%となっております。若い方の積極的な接種が望まれています。(逐次ホームページに掲載)

接種による副反応を心配し、若年者ほど接種を躊躇される方が多いとも考えられますが、厚生労働省が公表した『ワクチン接種回数ごとの10万人当たりの新規陽性者数(3月28日～4月3日)』を見ると、3回目のワクチン接種により、全年齢で新規陽性者の割合が減っていることが確認できます。

3回目のワクチン接種により、重症化や感染を低下させ、そのことにより後遺症も少なくなると考えています。

ゴールデンウィークは、遠出や人に会う機会が増えます。感染対策をしっかり行い、特に、飲食時にマスクなしで、あるいは、密閉したところで会話をするのを避けるようお願いいたします。

ワクチン接種は、週末も可能ですので、ご相談ください。

美里町タクシー利用料金
補助事業の申請はお済みですか？

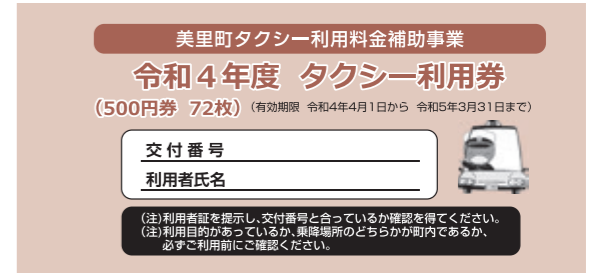
町では、自動車運転免許証を返納したかたなどの日常生活の移動手段を確保するため、「タクシー利用料金補助事業」として、タクシー券を交付しています。

令和4年度の申請がまだお済みでないかたは、お早めに福祉課へ申請をお願いします。

利用券の額など

年間交付限度枚数＝
72枚(500円券) 36,000円分
※年度途中で申請したかたは、当該年度の残りの月数(申請月を含む)に6枚を乗じた枚数となります。(5月に申請した場合は6枚×11か月分＝66枚)

使用限度 1回の乗車につき4枚(2,000円)まで
利用目的 美里町を発着とする通院、通所、買物、公共施設、金融機関、駅への移動のみ
対象者 自動車運転免許証の交付を受けていないかた(40歳以上)など
問合せ 福祉課 社会福祉係 ☎76-5132



5月と9月はあいさつ・ありがとう重点推進月間
あいさつ・ありがとう運動を推進します
「ありがとう」で広がる笑顔の輪

美里町文化財ガイドブック2
美里町の昔ばなし

11 相撲取り玉垣の碑(沼上)

沼上の鎮守北向神社の境内に、江戸時代の相撲取り「玉垣関」の碑があります。安政四年(一八五七)に建立された、高さ二メートルほどの石碑です。

「玉垣関」は、九州の島原藩出身で、江戸に住み、当時の相撲界の尽力者といわれます。当時の沼上村を訪れたことがあるのでしようか、境内の玉垣碑の傍には土俵が築かれています。かといって沼上では長い間、相撲が取られていたといえ、祭日には多くの人々が相撲を取り、見物人も加わって大変にぎやかだったと伝えられています。

また、石碑には、製作者の「世話人常磐野猪野助 漣大五郎」の名前のほか、「取る毎に見おとりのせぬ すもうかな」という句が刻まれています。

※ガイドブックは、美里町コミュニティセンターで無料配布(1冊1冊まで)しています

玉垣碑

このたび、4月1日をもちまして、美里町副町長に就任いたしました鈴木柳藏と申します。

本町では現在、寄居スマートインターチェンジの全線開通を手始めに、土地利用計画の策定に尽力しているところです。

役場から松久駅の周辺に住宅地や商業施設、リハビリ施設の整備など、日常生活に必要な機能を集約させ、地域の活性化を図る大きな取組みを進めています。

このような重要な時期に、副町長として「まちづくり」に尽力させていただくことは、身に余る光栄であると同時に、重責を担うことに身の引き締まる思いです。



副町長
鈴木柳藏

本町のこれからをつくる基本理念は、「心身ともに美しく暮らせるまちづくり」です。美しい自然環境を守りながら新しいものを生み出し、地域社会のつながりを大切にしながら、一人ひとりが本町の暮らしを幸せに感じることが出来る「まちづくり」に全力で取り組んでまいりたいと考えております。

もとより、微力ではございますが、原田町長を補佐し、町政発展のため、誠心誠意努めてまいります。

町民の皆様のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶いたします。

副町長 就任のご挨拶